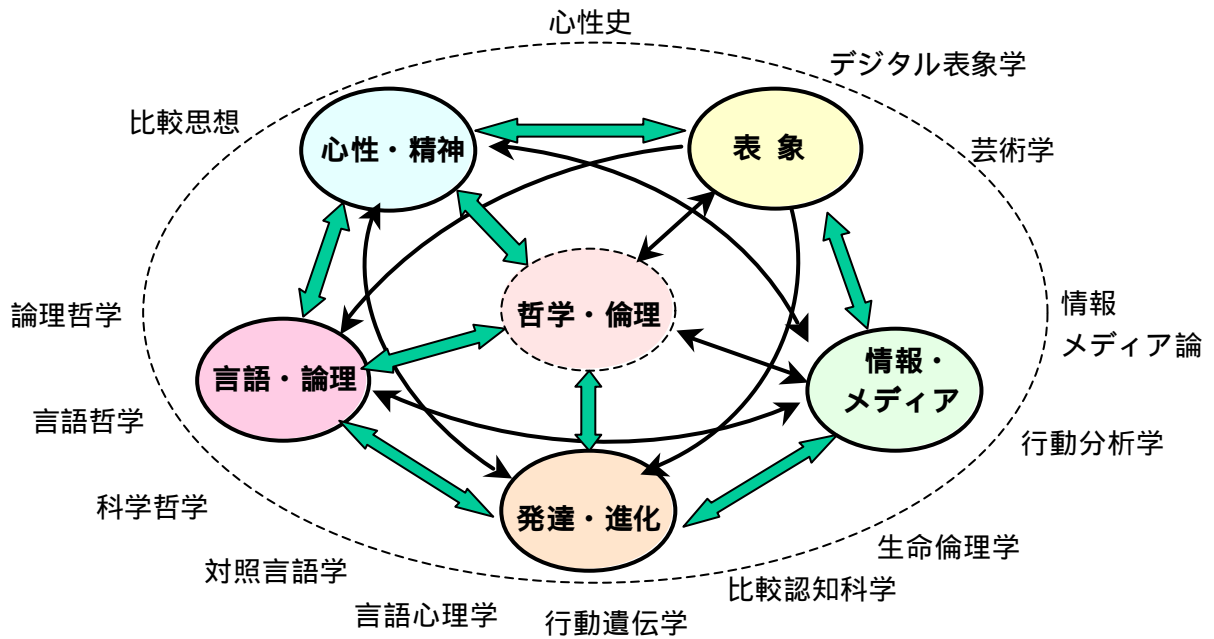


(様式1)

大 学 名	慶應義塾大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	文学研究科哲学・倫理専攻 美術史学専攻 史学専攻 国文学専攻 中国文学専攻 英文学専攻 独文学専攻 仏文学専攻 図書館・情報学専攻 社会学研究科心理学専攻 教育学専攻 言語文化研究所		
拠点のプログラム名称	心の解明に向けての統合的方法論構築		
拠点リーダー氏名	西村太良	所属部局・職	文学研究科委員長 文学研究科 英文学専攻・教授
プログラムの概要	「心の解明」に向けて、脳科学、神経科学、行動遺伝学などの最新の研究成果を哲学、言語学、表象論、情報学などの人文諸学の研究蓄積と融合する世界的研究教育拠点を形成し、統合的方法論を構築すると共に複数領域の統合的方法論を身につけた次世代研究者を育成する。		
拠点形成の目的・必要性	「心の解明」はプラトン、アリストテレス以来の哲学及び人文科学の中心的課題であり、今日の最重要課題でもあるが、現状では細分化された既存の人文科学の単独の領域内での解決は困難であり、他方新しい脳科学などによる検証可能な研究成果の位置付けも充分定まっているとは言えない。このような状況を打破するために、論理、言語、意味、表象、意識などの領域について、哲学、倫理学、心理学、認知科学、芸術学、言語学、情報学など異なる方法論を融合する共同研究体制を確立し、光トポグラフィ -などを援用して「ヒトの内的推論過程の特性」、「外界受容の生物学的制約と文化的制約」、「心における表象の意味」についての統合的方法論を構築すると同時に、複数領域の統合的方法論を身につけた次世代研究者を育成することを目的とする。		
研究拠点形成実施計画	1) 第一段階は、既に世界的成果を挙げている線形論理学研究、鳥類視覚認知研究、行動遺伝学研究、言語心理学研究、意味論研究、デジタル表象学研究、比較思想研究などを中軸に据え、五つの個別分野(A言語・論理、B発達・進化、C表象、D情報メディア、E心性・精神)で個別的方法論によるプロジェクトを立ち上げ、国内外より第一線の研究者を短期、中期的に招聘し、セミナー、シンポジウム、海外調査なども含め研究活動を行う。2) 第二段階は、これらを基として三つの分野横断的な共同研究プロジェクト(I ヒトの内的推論過程の特性、II 外界受容の生物学的制約と文化的制約、III 心における表象の意味)により心の解明に向けた統合的方法論を構築する。		
教育実施計画	若手研究者育成のために以下のような環境整備を行う。1) 学際的教育環境：超領域的共同研究プロジェクトへの参加による研究会、シンポジウムでの研究発表の機会の提供と博士号取得の支援、促進。2) 国際的研究環境：海外招聘研究者との共同研究及び外国語による学会発表、論文執筆の支援、補助。3) 安定した経済環境：後期博士課程在学者を対象とした選抜制度による研究奨学金の給付。PDを対象とした競争的研究補助制度であるリサーチフェロ -シップの導入。院生を対象とした短期在外研究補助。選抜制度による外国人留学生奨学生の募集。及び国内外における学会発表の補助。		

# 心の解明に関わる哲学を中心とした5領域



第1段階 :5領域における個別的方法論による心の解明の深化 (2002年度～2004年度)

第2段階 :個別的方法論による研究の統合 (2004年度～2006年度)

## 主要な研究テーマ

言語・論理	自然言語による推論構造と人工言語の推論システム 双生児のパーソナリティ形成 子供の言語獲得の脳内機能の解明 視覚認知と概念形成の比較研究	ヒトの内的推論過程の特性 (言語・論理、発達・進化、情報)
発達・進化	図像データベースを用いたヨーロッパ中世写本の図像の伝播と受容の構造の解明	外界受容の生物学的制約と文化的制約 (言語・論理、発達・進化、表象)
表象	異なるメディアによる同一情報の受容の違いの比較研究	心における表象の意味 (言語・論理、表象、メディア、心性・精神)
情報・メディア	古代言語における心性を表す語彙の意味論的比較研究	
心性・精神		